

はじめに（序論）

世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に加え、ウクライナ情勢等の影響により、農業現場においては肥料や飼料、燃料や資材の価格が高騰し、農家経営を圧迫しています。

その対策が喫緊の課題となっており、技術的な面では飼料の自給率向上、粗飼料品質の向上、堆肥など有機物の有効利用、施肥の見直しなどが各地で取り進められています。

これらの対策は、継続的に進めていけば、確実に成果は上がります。

また、いずれも粗飼料生産に係る対策であり、主として広大な草地を基盤とする粗飼料自給型の酪農業が展開されている根室管内では、取り組みを進める価値は大きいと考えられます。

そこで、令和5年の営農改善資料は、粗飼料生産をテーマに、根室管内における草地管理の現状と課題を整理し、具体的な解決策を検討するために必要な基礎知識および技術を紹介し、今後の草地管理改善のために活用してもらうことをねらいとして発行します。

ところで、草地管理については、草地の状況を知ることが第一歩です。下の写真を見ていただけますでしょうか。こんな草地をみたことはありませんか。



写真1



写真2



写真3



写真4

写真1はシバムギという雑草が倒伏している状況です。倒伏していない部分に比べて色が違うのが分かると思います。シバムギは細く柔らかいため倒れやすいという特徴があります。

写真2はメドフォックステイルという雑草が繁茂した草地です。チモシーに似ていますが、出穂が早く、穂が黒く見えるため、見たことがある方も多いと思います。

写真3は縦線状の裸地化が認められます。スラリー散布等のタイミングが丁度チモシーの分けつ時にあたり、その分けつに農業機械の踏圧がかかることによりダメージを与えたのではないかと推測されます。

写真4は散布したスラリーの残渣が草に付着した状況です。散布量が多い場合は付着したスラリー残渣が収穫時に牧草とともに収穫され、粗飼料の品質低下を招きます。また、スラリーなど有機物が多く施用されると、特に土壌や飼料中のカリが過剰になりがちです。粗飼料の分析を行い、カリの値をチェックしてみましょう。

酪農・畜産業も分業化や作業の外部委託が進み、草地を見る機会が減少していると思います。まずは、自農場の全ての草地をチェックしてみませんか。写真1や写真2のように雑草が多ければ栄養価の低下や牛の嗜好性悪化を引き起こします。裸地が多ければ収量の低下や雑草の侵入増加が懸念されます。また、写真3や写真4のようにタイミングを逃すと見つけづらいものもあります。時期による確認と早期発見が大切です。早めに対応することで、低収、低品質化を食い止めることが可能です。

雑草や裸地が多い、生育が不揃いなど気になる草地があれば、原因の特定、対処方法の検討を行いましょう。そのための基礎知識については、本資料を参考にいただければ幸いです。

